初恋

1. 十五の春の学び舎で　髪すく君の白い手の
　小耳にそっとかかるとき　か細きうなじ香ぐわしき

2. 学園祭の輪のなかで　初めて触れた君の指
　我が手の掌に包むとき　高なる想い止められず

3. 証しは淡く西東　通わす文は届かぬに
　風の便りは人の妻　ただ幸あれと祈るなり

4. 七年ながし銀山湖　か細き胸を抱くとき
　薄紅の唇に　あの日の想い重ねけり

5. 五十路の旅の黒髪の　日比谷の園に揺れしとき
　あの日と同じ仕草する　君の瞳ぞ美しき

北浦慕情

１．夕日が水面に映える時　君の横顔シルエット
　そっと重ねた手のひらを　お任せしますと
　包み返したその人は　北浦の女（ひと）
　ああ　先に進めば　人目を忍ぶ恋の道

２．風が河岸を渡る時　かすかに揺れるほつれ髪
　微笑み返す君の瞳が　男の心を誘（いざな）って
　くちびる重ねたその人は　北浦の女
　ああ　もう戻れない以前には　二人で摘んだ恋の華

３．霧が湖畔にかかる時　何時しかあなたは涙ぐむ
　過去を聞いてと言う人の　胸を引き寄せ
　抱きしめたその人は　　北浦の女
　ああ　このめくるめく恋の淵　明日の逢瀬を待つばかり